



短歌にありがとう

日曜日の早朝、テレビをつけてみたら短歌の時間でした。

『山なんか 笑わないよと言う孫よ 勉強してごらん 亀だつて笑うよ』

今回は「笑う」がテーマで、一般の人が作って選ばれた短歌です。短歌など作ったことのない私は、この歌の説明に聞き入りました。

山笑うー春の季語

山滴るー夏の季語

山装うー秋の季語

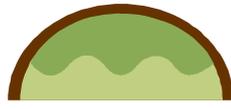
山眠るー冬の季語

そして、亀笑うは春の季語です。と説明がありました。

七十歳をすぎた私ですが、知らない事や感じ得ない事がいっぱいあった自分に気付かされました。

山里生まれの私ですが、大自然の中で当たり前のように成長してきた事が、いかに幸の中にいたのかとつくづく思いました。

(浦和市/R・E)



梅雨のつとむね

ありがとう

気象庁による、早とちり梅雨宣言が、出た直後から晴天が続いた。予報のずれに水源地の枯渇や、農業関係者をやきもきさせたようだが、何のことはない暦どりに梅雨入りしたようだ。



その雨が、降ろうが降るまいが季節がめぐり、この時期になると忘れることなく今年も、猫の額ほどの小さな庭に、アジサイの花が咲いてく

先程まで、雨にしっかりと濡れて咲いていたが、何故か、この花には雨がお似合いの様である。霧雨にけぶる中に純白から薄紫、そして薄紅へと変化していく風情からは、艶めかしさを覚える。

雨あがりの午後、さし木には頃合いと思ひ、アジサイの傍らに植えてある、沈丁花の若い枝を数本摘み、軟化した土に植えてから、何げなくアジサイに目をやると、大きな葉の上に、茶色の殻を付けた、でかいカタツムリがいて、目があった。

眺めていると、何処かへ向かうのか歩みは遅いが、少しずつ前進している。そこで、退屈しのぎに声をかけた

「お前は生きてて、楽しいかい？」その声を無視して進んでいく。

「でも良かったな、日本に生まれて、フランス辺りで生まれてりや今頃、食卓の上だぜ。」

心なしに、カタツムリが頷いて見えた。「それにしても、自分の家を持って

いるんだから大したもんだ。それに比べたら家の持てないおれは、さしずめナメクジって言うところかねえ。その時、網戸が開いて、古女房が顔を出した。「さっきから、何をブツブツ言ってるんだい？」

(世田谷区/H・A)

五本指の靴下に

ありがとう

ここ数年来五本指の靴下を愛用しています。健康に良いと聞いたからです。



履く時は指一本一本に丁寧に入れていきます。ですから少し時間がかかります。脱ぐ時は簡単、指の先を引っ張ればすぐに脱げます。

先日、近所の高齢者用のお風呂に行きました。いいお湯にひたつた後、脱衣所でいつもの五本指の靴下を履きました。そこへ八十代のおばあさんが近づいてきて、私の靴下に触り、「かわいいね。」

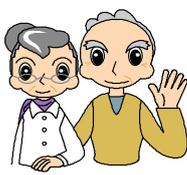
と言ったのであります。その日は、私の姪が送ってきてくれた「ブタさん」の柄の五本指靴下です。指先は両足とも赤色です。右足の甲は上半身の顔の部分、左足は下半身のお尻とシツポだけだったブタです。なんと左右別々です。私も両足をじっくりと見ると、本

当にブタの柄がかわいく、思わず笑ってしまいます。二人で顔を見合わせてニッコリします。こんなブタの絵でも人の心を癒してくれます。それからこのおばあさんに会うと、今まで話すこともなかったのに挨拶を交わします。おばあさんは、「今日はどんな靴下かしら？」と声をかけてきます。靴下が取り持つコミュニケーションです。これからもずっと五本指の靴下を愛用していきます。おばあさん、また靴下を見てね。

(目黒区/H・O)

主人にありがとう

大学を卒業し、今の会社に入社して三十七年。主人が無事退職を迎えました。



「長い間、御苦労さまでした。どうでしたか？」と聞くと、「“忍”の一字。」との答え。

この言葉で主人はどんなに苦労があっても、家族のために耐えて務めあげ、やっと会社から解放されたのだと思いました。

これからはゆっくりしていただこうと思いましたが、根が真面目で働きの主人はすぐに仕事を探して働いています。いつも家族の事を思っ

て下さりありがとうございます。主人は毎日、親に恩返しをしたいと言っています。これからは私も共に親孝行させていただきます。

(品川区/T・S)

